

ともしび づだより



祝
100号



社会福祉法人
依田達福祉会

事業別連絡先一覧

●法人本部 ☎85-2202
[E-mail] info@yodakubofukushikai.jp
[U R L] <http://www.yodakubofukushikai.jp/>

●依田達特別養護老人ホーム } ☎85-2218
●短期入所生活介護事業 }
●依田達福祉会居宅介護支援事業 } ☎85-2047
●相談支援事業 花もも }

●寄り合い処 なすな ☎75-0522
●デイサービスセンター 武石 ☎75-0522
●ヘルパーステーションこすもす ☎85-0098

●デイサービスセンター 長門 ☎68-0226
●小規模多機能型居宅介護 大門の家 ☎41-2123
●デイサービスセンター 和田 } ☎88-0077
●高齢者生活福祉センター }

●グループホーム和田 ☎88-0088



新年のごあいさつ



理事長

吉池 順一

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

旧長門町・旧和田村・旧武石村の熱い想いにより設立された当社会福祉法人 依田窪福祉会も、設立29年目の新春を迎えることが出来ました。これも皆様方のご支援ご指導ご協力の賜物と心よりお礼申し上げます。本年も引き続き、地域に根ざした福祉サービスを提供し、皆さまの暮らしを支えてまいります。

昨年、令和6年は、第9期介護保険事業計画の本格的な実施が始まり、介護サービスの質の向上と持続可能性を図るため、さまざまな施策が進められてきました。私たちもこれに呼応し、地域包括ケアシステムの深化に努め、利用者一人ひとりに寄り添ったサービス提供に邁進してまいりました。

また、本年、令和7年(2025年)には団塊の世代が全て後期高齢者となり、介護需要がさらに高まることが予想されています。この「2025年問題」に対処するためには、単にサービスを拡充するだけでなく、地域住民の支え合いやICTを活用した効率的な運営、そして職員の働きやすい環境づくりが不可欠であると考えます。当法人においても、これらの取り組みを強化し、持続可能な福祉体制の構築に尽力してまいります。

本年も職員一同、全力で業務に邁進してまいりますので、何卒変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。皆さまにとって、幸多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

ともしびだより100号に寄せて

当法人広報誌「ともしびだより第1号(平成9年10月20日発行)」から、「第99号(令和6年9月1日発行)」までの全99号分の「ともしびだより」に目を通したところです。

今日までの29年間、「役員・施設長・職員の想い」、「各種研修・訓練などの報告」、「新入職員・異動職員の紹介」、「感染症対策」、「ご寄付お礼」など多岐にわたる様々な歴史が綴られています。

その99号分の中でもっとも目を引く記事は、全号にわたり掲載されている各施設での工夫をこらしたさまざまな催し・ドライブ・お出かけ・交流会・日々の生活のなかでのご利用者様の笑顔とエピソードと、ご利用者ご家族様からの激励です。

これからも、当法人の理念「地域の方々の安心・安全な自立生活の支援」、介護方針「ゆっくり、いっしょ、わがまま」を旨とし、いつまでもご利用者様の笑顔をお届けできるよう、法人運営に携わってまいります。みなさまのご理解、ご協力を賜りますようなにとぞよろしくお願い申し上げます。



依田窪福社会沿革(29年の記録)

西暦	和暦	月日	できごと
1996	平成 8 年	6月	社会福祉法人依田窪福社会設立 永井泰美・武石村長理事長就任(初代)
1997	平成 9 年	4月	依田窪特別養護老人ホーム開所
1998	平成10年	8月	羽田健一郎・和田村長理事長就任(2代目)
1999	平成11年	4月	ホームヘルプサービス開始(旧長門・和田・武石村社協より移管) 配食サービス開始(年中無休、昼夜合わせて月3,000~3,500食)
2000	平成12年	4月	介護保険制度施行 居宅介護支援事業開所
2001	平成13年	4月	デイサービスセンター和田(旧和田村社協より移管) デイサービスセンター長門(旧長門町社協より移管)
2002	平成14年	6月	介護何でも相談室開所(ジャスコ武石店「ピコ」内に開設)
2002	平成14年	7月	デイサービスセンター鳥屋開所(宅老所定員10名)
2003	平成15年	2月	下村 聖・武石村長理事長就任(3代目)
2004	平成16年	10月	デイサービスセンター大門開所(定員10名)
2005	平成17年	1月	デイサービスセンター上本入開所(定員10名)
2005	平成17年	2月	小林一彦・長門町長理事長就任(4代目)
2005	平成17年	4月	グループホーム和田開所(定員8名)
2005	平成17年	10月	長和町誕生～羽田健一郎町長が初代町長就任(長門5,002名+和田2,446名=7,448名)
2006	平成18年	3月	武石村(4,089名)が丸子町・真田町・上田市と合併し上田市に編入
2006	平成18年	5月	羽田健一郎・長和町町長理事長就任(5代目)
2006	平成18年	10月	開設10周年記念式典を10/13(金)11:00～武石公民館にて開催
2008	平成20年	2月	デイサービスセンター長久保開所(定員10名) デイサービスセンター橋場なごみや開所(定員3名)
2012	平成24年	7月	渡邊和美理事長就任(羽田町長理事長より継承・6代目)
2013	平成25年	3月	デイサービスセンター大門を廃止
2013	平成25年	4月	小規模多機能型居宅介護大門の家へ移行(デイサービスセンター大門)
2016	平成28年	4月	デイサービスセンター鳥屋をデイサービスセンター長門のサテライト事業に変更
2016	平成28年	10月	開設20周年記念式典を10/15(土)13:30～武石公民館にて開催
2016	平成28年	10月	デイサービスセンター上本入を地域支援事業に移行し「からさわ」に名称変更
2017	平成29年	3月	デイサービスセンター長久保休止
2017	平成29年	4月	デイサービスセンター和田のおたっしや倶楽部開始
2018	平成30年	4月	デイサービスセンター長久保を廃止
2018	平成30年	4月	相談支援事業花ももの営業を開始
2019	平成31年	4月	デイサービスセンター鳥屋を廃止
2021	令和 3 年	3月	配食サービスを廃止
2021	令和 3 年	4月	デイサービスセンター武石開始(上田市社協より移管)
2021	令和 3 年	4月	寄り合い処「からさわ」をデイ武石に移転し名称「なずな」に変更
2021	令和 3 年	4月	グループホーム和田新設(定員9名)
2021	令和 3 年	4月	橋場「なごみや」を廃止して、デイ和田のサテライト事業化
2023	令和 5 年	7月	寄り合い処「なずな」を休止
2024	令和 6 年	6月	吉池順一理事長就任 (渡邊和美前理事長より継承・7代目)
2025	令和 7 年	6月	法人設立より29年目を迎える

 現在も運営している事業

第100号記念特集

1997年(平成9年)4月依田窪特別養護老人ホームは開所されました同年10月にともしびだよりの第1号を発行して以来、令和元年5月号までは年4回のペースで発行、カラー化以降年3回の発行となり、設立29年目を迎える本年、100号を迎えました。「社会福祉法人依田窪福祉会」の歴史とともに、広報紙の移り変わりを振り返り、今後とも地域の皆様からご愛読いただけるよう広報委員から感謝の思いを込め、特集させて頂きました。

広報紙の表紙の移り変わり

10号～19号



平成12年6月～平成14年10月

平成12年4月より介護保険制度が施行され、身体拘束などについて先進的なゼロ宣言をし、取り組んだ歴史など成長期の依田窪福祉会がうかがえる広報誌でした

20号～29号



平成15年1月～平成17年8月

家族会旅行や介護なんでも相談室(ピコ内)の記事、私だったらこんな介護をして欲しい特集など目を引く記事が盛りだくさんで、活発な職員交流など充実の内容です

創刊号～9号



平成9年10月～平成12年3月

創刊号は手作りで温かみがあり内容も施設づくりへの想いや職員紹介、行事報告、はたまたボランティア募集など非常に充実した内容の広報誌でした

30号～39号



平成17年11月～平成20年2月

将来を見据えた「これからの高齢者福祉サービス」について考えたり、34号で創立10周年を迎えたことを特集し、新たな10年に向けた様々な取組みが見えました

40号～49号



平成20年5月～平成22年8月

人材育成(新人研修・事業所内研修)の充実期でデンマークへの海外研修の記録がありました。また地域が抱える福祉課題を積極的に掘り起こしていました

50号～59号



平成22年11月～平成25年2月

平成23年3月11日東日本大震災を経験し、ボランティア派遣から多くを学びました。平成24年7月羽田理事長(町長)より渡邊和美前理事長へとバトンタッチ

60号～69号



平成25年8月～平成27年11月

これまでのサービスごとの記事構成から拠点単位での紙面構成となりました。平成27年6月プラチナくるみん認定長野県第1号となり、今現在まで続いています

70号～79号



平成28年2月～平成30年5月

平成28年10月の創立20周年記念祝賀会の様子がカラー版で発行されました。平成29年9月にはスマイルフィットネスをOPENさせ地域への健康の維持増進を図りました

80号～89号



平成30年8月～令和3年6月

84号(令和元年9月)カラー印刷移行。同年10月の台風19号の甚大な被害から教訓を。また令和2年1月より新型コロナウイルス感染症大流行の時代へ突入していきました

90号～99号



令和3年9月～令和6年9月

おたよりの写真にマスク姿のご利用者・職員の姿が目立ちます。しかしコロナ禍でも職員は知恵を絞ってイベント開催の記録が多数。令和6年6月吉池順一新理事長就任

特別養護老人ホームともしび

“特養ともしび”があつてよかった ～「ゆっくり・いっしょ・わがまま」に暮らす～

“美ヶ原の麓のきれいな空気と水、四季折々の見慣れた山々を感じながら、家族や馴染みの顔を見ながら穏やかに暮らし続けたい”

ご利用者、ご家族から「ともしびがあつてよかった」

「安心した」「ここは良い」このような言葉をお聞きすると、地域とともに歩んできた信頼と歴史を感じます。

これからも地域に頼られ、愛される特養ともしびでありたいと思います。

“できることを できるときに できる分だけ” ボランティア

ともしびは、家族会(さつき会)と地域のボランティアの皆さんに支えていただいています。その内容は多様で、クラブ活動や行事のお手伝い、読み語り、洗濯たたみ、清掃、織い、名前つけ、草取り、落ち葉の片付け、障子貼りなどがあります。地域の皆さんとの繋がりの中で、ご利用者の楽しみも増え生活が充実していきますし、ともしびにとって地域のサポートはとても心強いです。これからも、“できることをできるときに できる分だけ” 気楽にお手伝いをお願いします。



書道クラブ 矢嶋さん 柿島さん



家族会の餅つき



ゆりかごの会

依田窪福祉社会居宅介護支援事業

つながり (ともしびだより100号を記念して)

皆さんは「ピコ」を覚えていますか？

もう覚えていない方も多いかと思いますが、武石地域にあったスーパーです。私たち、依田窪福祉社会居宅介護支援事業は、介護の相談やおむつの当て方・選び方・福祉用具・介護保険の申請など、地域の方の相談をお聞きする場として「介護なんでも相談室」を開いていました。その後事務所が現在の特別養護老人ホームともしびの中に移り、直接来てくださる方の相談をお受けすることが少なくなりました。現在は担当している方やご家族の悩みをお聞きし、介護や地域支援についての相談にのっていま

す。初めての介護で「おむつはどのように当てるのか。」と聞かれ、直接当て方を伝える場合もあります。また、相談内容によってはどうすれば解決できるか?と悩むこともあり、事業所の仲間たちに投げかけることもあります。

ケアマネジャーは守秘義務を課せられています。住みやすい地域を作ることが出来るように活動していきたいと考えていますのでお困りの事があれば安心して相談してください。お待ちしております。



デイサービスセンター武石

住み慣れた場所

デイサービスでは、朝、ご自宅にお迎えに行き、帰りはご自宅までお送りしています。季節の移り変わる田畑を見れば、農作業に明け暮れたころの話題になり、ああだったよね、こうだったよね・・・

「そうそう。あの頃はみんな手作業だ。今とは違うね」

「武石公園にお弁当持って、みんなで花見をしたもんだ。昔は賑やかだったねえ」

たわわに実る柿の木を見つけると、「あ～もったいないねえ、今の人はくし柿なんかしないのかねえ。柿の皮をポケットに入れて食べたもんだ。それが美味しいんだよ」 みなさんから見える風景は、お一人おひとりの記憶を思いよみがえらせ、苦労話も知恵の詰まった話も盛りだくさんです。

住み慣れた場所の風景は心の宝物なのでしょうね。その地域で生活されているみなさんを見守っているような気がします。みなが集う場所に出かけたり、地域の方々と過ごすことが自然にできる環境でありたいと思います。高齢者にとってこれからも優しい地域でありたいものです。



武石保育園の子供たちとの交流



ともしびの里文化祭



一周に挑戦



武石にぎわい広場を歩こう



まつたけご飯でいただきました

ヘルプーステーションにすもす

ヘルパーってどんな人？

皆さん、私たちのことを『家に手伝いに来てくれるヘルパーさん』と呼んで下さっていますが、ヘルパーとはどんな仕事なのでしょうか。

介護保険が始まった頃は、『お手伝いさん』『家政婦さんの代わり』のイメージが大きく、実際お掃除の支援が多かったように思います。現在は『介護保険制度で生活や身体に関するサポートに来る人』と認知していただけるようになりました。

訪問介護は介護の専門職員が介護保険法のもとで【ご利用者が生活していくために必要不可欠なこと】を援助するサービスです。掃除や洗濯等家事の支援も多いですが、家事を専門に扱う業者の方と違い、ご利用者の生活の様子や体調

面を見守り、必要があれば担当のケアマネジャーに連絡する役目を担っています。

自宅で生活するには『自分で出来る』ことが大切です。訪問介護も、利用者の大変なところをヘルパーが少し補いながら、一緒に家事や身の回りのことを行っていく援助内容になっています(【自立生活支援見守りの援助】)。

『自宅での生活が大変になってきた』『ちょっと手伝ってもらえたら楽なのに』と悩みがある方は、ぜひ担当ケアマネジャーにご相談ください。地域での暮らしのお手伝い、これからも続けていきます。



～繋がり～

毎月1回、地域の方が傾聴ボランティアとして施設に来てくださっています。

ご利用者のそばに行き、自己紹介から始まり、普段の様子、昔のこと、地域のこと、困っている事はないかなど様々なお話をして下さっています。時には知り合いだったりすることもあります。「久しぶりだね!元気でいた?」なんてことも。その時間、デイサービスの職員は入浴介助をしていますので、ご利用者と



ゆっくりお話を聞いて下さるボランティアさんはとても貴重で有り難いことです。ご利用者も、「ありがとう、またね」、「話を聞いてくれて良かった」と嬉しそうです。地域の方が関わって下さることで、デイサービスの様子を知っていただく機会にもなります。地域の中で困っている高齢者がいれば、ボランティアさんから相談を受けることにも繋がると思います。繋がることで広がり、誰もが相談しやすい場所、このデイサービスに来れば不安や迷いがあっても相談できるそんな場所になればと思います。

小規模多機能型居宅介護 大門の家

トントントンからりと隣組 格子を開ければ顔なじみ
廻してちょうだい回覧板 知らせられたり知らせたり

トントントンからりと隣組 あれこれ面倒味噌醤油
ご飯の炊き方垣根越し 教えられたり教えたり

トントントンからりと隣組 地震や雷火事泥棒
互いに役立つ用心棒 助けられたり助けたり

トントントンからりと隣組 何軒あろうと一所帯
心は一つの屋根の月 纏められたり 纏めたり

これは1930年(昭和5年)代に良く歌われていた「隣組」という歌で地域社会の団結と支え合いがテーマだそうです。大門の家では歌の好きな方が多く、良く歌を歌います。一緒に歌を歌いながら、時にその歌詞に深く考えさせられることもあります。

今から10年前の2014年2月県内はとてつもない大雪に見舞われました。交通も麻痺してしまった状況下で「介護や看護が必要な方は、どうしているんだろうか?」と思うと同時に、徒歩圏内に困った

方が居れば何か手伝う事もできるが、そういう方がご近所にいるのかも知らずに生活していることに気がきました。昨今、共働き世帯、核家族化や世代交代に伴い考え方や意識などが多様化し、ご近所と言われる地域社会における関係も希薄になったように感じられます。昔から「困ったときはお互いさま」「遠くの親戚より、近くの他人」といわれるような地域の住民が互いに助け合う「互近助」関係やコミュニティがあった時代が今、再び求められているように感じています。

グループホーム 和田

今年100歳をむかえられたご利用者へ、羽田町長より花束と表彰状の贈呈があり、施設内がお祝いムードに包まれました。

グループホームではご利用者が談話スペースに自然と集まり、日中はほとんどここで過ごされています。言葉には出しませんが誰かがいると安心するそんな気持ちが伝わってきます。

「ここはどこだい?」と、質問があると「ここは和田の新田地区ですよ」職員の言葉にどこか聞き覚えのある地名に安心されます。ご利用者がこれからも住み慣れた地域で暮らしている安心を感じられるように職員一同寄り添った支援を心がけていこうと思います。



デイサービスセンター 和田

地域の皆さんのご自宅で話を伺うと、「和田のデイサービスはどこにあるの?」と聞かれることが多かった数年前…最近では「あそこにあるのがデイサービスよね!」「前おばあちゃんがお世話になってたわ!」に変わってきたことを感じています。

デイサービスでは、入浴・食事等の生活支援から、個々の身体機能に応じた機能訓練やレクリエーションを行っています。またボランティア(ながわおたっしゃサポーター)の方に支えられ実施しているミニデイサービス(おたっしゃ倶楽部)や和田小学校との交流など、地域の方の力がデイサービスの力となり、デイサービスセンター和田が成り立っています。

地域の高齢者が、介護が必要になっても住み慣

れた地域で自分らしく暮らし続けていけるよう、様々な取り組みを続けながら地域にとって役に立つ存在になりたいと思います。

この和田にデイサービスがあって良かったと言ってもらえるよう、皆さんと一緒に成長し、今日も明日も和田の地域に笑顔を届ける場所でありたいと思います。



ご寄附ありがとうございました。

令和6年9月 ● 米

令和6年11月 ● 大豆

令和7年1月1日

発行者: 社会福祉法人依田窪福祉会 理事長: 吉池 順一 編集: 広報委員会 所在地: 〒386-0503 長野県上田市下武石776-1
TEL.0268-85-2202 FAX.0268-41-4200 E-mail: info@yodakubofukushikai.jp